

楽しい学び **de** クラスをつくる

Vol.08



大滝 文平

特別
企画

「学年・学級開き」大特集!!

新しい子どもとの出会いを存分に喜びたい! そのために!

「1年間やりきったー!」、そんな感慨に浸ってられるのも一瞬のうち。

日々、目の前の子どもと向き合って過ごしていると、あっという間に年度末が……。そして、次の学年や進学先に子どもたちを送れるよう、学習を進めたり、事務処理を行ったりしていることでしょう。数日後には新年度が待っています。年度末から年度初めにかけて慌ただしく気持ちの切り替えも難しいことでしょう。だからこそ、少しでも安心して学年・学級開きを進めていきたいものです。

そこでVol.08は、**特別企画!「教えて 学年・学級開き!」**と題して、これまで本誌で執筆された先生方による、学年・学級開きを大公開です。どのような準備をして、何を心がけて、どのように初日を迎えるか。それぞれの先生によって同じようなことを大切にしていたり、違う個性を発揮していたりすることでしょう。どうぞ、経験ある先生方の学年・学級開きをご一読ください。

これを読まれた先生方が、少しでも安心して初日を迎えられ、出会った子どもたちが笑顔でスタートを切れることを願っています。もし、内容について「もう少し知りたい」「さらにアドバイスが欲しい」などがありましたら、p.11に掲載している北学場のメール (kitamanaba@gmail.com) にご連絡をください。



日文の Web サイト

日 文 🔍



vol.08 は !

学年・学級開き! に向けて
エッセンスがいっぱい!



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版



「愛のチョークで引田が斬る!」でおなじみの

引田 雄士先生の「教えて 学年・学級開き!」

(横浜市中山小学校)

実録! 主体的な種をまく学級開き!

どんな学級開きをしてきたかな……。今まで
のことを思い浮かべると、楽しみながらやって
いました。今回は、私がどんなことを意識しながら
学級開きをしてきたかを子どもとのやり取りか
ら、お伝えします!

1. 子どもの姿をイメージして準備!



「さあ、今年はクラスでどんなことをしようか
な? 子どもにどんなクラスにしたいと投げかけ
たら、どんな言葉が出るかな? 友達と仲良くす
るクラス、時間を守るクラス……。ノートにまとめ
てみよう」。

種まきポイント ①

ここでの種まきポイントは**出会う前の子
どもの姿を思い浮かべる**ことです。「最初に何
を話そう」「クラスのルールをどうしよう」、私
が1年間どうするかを考える時間です。

この時間がとても楽しい時間です。私が
この時に大事にしているのは、子どもの姿を
思い浮かべることです。最初はどうしても教
師から子どもに伝えることが多くなってしま
います。子どもが反応する姿や言葉を考え
るだけで、子どもと一緒に学習をつくるイメ
ージを持つことができます。

2. 見通しを持つ! 周りに声をかける!



Aさん「先生、ランドセルはどこに置けばいいで
すか?」

引田「黒板に書いているから、見ながらやってご
らん」

Bさん「先生、体操着はどこにかければいいで
すか?」

引田「Aさんが知っているから聞いてごらん」

種まきポイント ②

ここでの種まきポイントは二つあります。
一つ目は、「**自分で見通しを持つ**」ことです。
初日、子どもは教師にたくさん質問をしてき
ます。私は、やることを黒板に書くようにし
ています。そうすることで、子どもが黒板を
見ながら、自分で考えて準備をしています。
その繰り返しから、子どもが自分で黒板に次
の予定や準備するものを書くようになります。
そして、自分たちで見通しを持って動い
ていきます。二つ目は「**自分から周りに声を
かける**」ことです。子どもたちを教師がつな
ぐことで、周りへ関心を持つ子どもが増えて、
自分から周りを見て動けるようになっていき
ます。

3. 子どもの言葉からスタート!

引田「Aさんたちに今日は何をやるうかと聞い
たら、クラスのめあてやルールを決めたいと
言っていたんだけど、みんなはどうか?」

クラス「ルールってとても大切。みんなでルール
を決めるのは楽しそう!」

引田「じゃあ、先生とみんなで話し合って決めて
いこうね」

種まきポイント ③

ここでの種まきポイン
トは**子どもの言葉から
始める**ことです。私は
登校してきた子どもたち
とたくさん会話をします。その時に、「今日の
国語は何をやるんだっけ?」「駅前のスーパー
に行ってみた?」など、学習の話もします。す
ると、「今日は、みんなで詩を読むんだよ」「駅
前のスーパーは野菜がとても安かったよ」な
ど、たくさん話をしてくれます。この話を学習
の始まりにクラスへ伝えます。できれば、子
ども自身に話をしてもらうのがベスト。伝える
子どもも自信になり、子どもたちも真剣に
話を聞きます。子どもの言葉から始めること
を繰り返すことで、自分たちで学習をつくら
という気持ちが芽生えてきます。

4. たくさん問い返す!

引田「クラスのめあてだけど、どうしたらいい?」

Aさん「助け合うクラスにしたいです」

引田「どうしてかな?」

Aさん「消しゴムを落とした時に、クラスのみんな
が探してくれたからです」

種まきポイント ④

ここでの種まきポイントは**子どもの考えを
問い返す**ことです。問い返しをしないと、子
どもの意見が止まってしまいます。問い返す
ことで、自分の意見の根拠を考えるようにな
ります。そして、問い返しを繰り返すことで、
どの学習でも根拠をもとにした発表になりま
す。そして、クラス全体に問い返すことで、み
んなで考えることができます。発表した子ど
もは「自分の考えがクラスに受け入れられて
いる」と、嬉しい気持ちが生まれます。

5. みんなでつくる板書!

引田「Aさんの言葉を黒板のどこに書こうか?」

Bさん「黒板の真ん中に書いた方がいいよ」

引田「どうして真ん中に書くのかな?」

Bさん「助け合うはクラスにとって大切な言葉だ
から、真ん中に書いた方がいいと
思いました」

種まきポイント ⑤

ここでの種まきポイントは**子どもと一緒に
板書をつくっていく**ことです。子どもと黒板の
どこに書くか考えていくことで、学習で大切な
言葉が見えてきます。「先生、その言葉はもっ
と右に書いた方がいいよ。だって似ている言
語があるから」「先生、次のめあてを書いてな
いよ」など、子どもが自分たちで黒板をつくる
気持ちが育まれてきます。

6. つぶやきをキャッチ!

引田「4年生がゴールだね! みんなで目指してい
こうね!」

Aさんのつぶやき「みんなで船に乗って4年生の
ゴールを目指したいな」

引田「みんなはどう?」

クラス「面白そう!
船に乗っていきたい!」

種まきポイント ⑥

ここでの種まきポイントは**子どものつぶや
きをキャッチする**ことです。「船に乗ってゴール
を目指したい」という言葉が出た時に私は、
船のことは一切考えていませんでした。この
つぶやきをキャッチすることで、私の考えを超
えた意見がたくさん出てきました。船の形や
名前、ルール、テーマなどいろいろなアイデア
が生まれて、クラス目標が「リーダーさんいち
31号」に決まりました。子どものつぶやきは
宝物です。

私の学級開きは、主体的な種をたくさんまき
ます。それが芽を出し、花を咲かせるには時
間がかかります。また、そこも楽しい時間
です。皆さんも学級開きを楽しんでください。



YUKIKOの部屋 check point! でおなじみの

武藤 由希子先生の「教えて 学年・学級開き！」
(横浜市立本牧小学校)

Prologue 子どもたちとの 出会いを大切に！

4月。新しい学年、新しいクラスを、子どもたちはとても楽しみにしています。ときどきワクワク。これからの学校生活に様々な期待をしています。でも、それだけではありません。「友達ができるかな?」「先生はどんな人かな?」、楽しみだけでなく、何かしら不安を抱えている子も多くいます。そんな子どもたちと、どのような出会いをするのか。子どもたちと出会い、クラスや学年をつくり上げていく4月は、これからの1年間がほぼ決まる大切な時期ですね。

学年によって、子どもたちによって様々な手立てがあるので、正解はこれ!というものはないと思います。私がこれまで4月に実践したことの一部を書きますので、皆さんの学年や子どもたちの実態に合わせて、何か少しでも参考になるものがあると嬉しいです。

Scene 1 子どもの夢を大切に！

子どもたちは、何かしらの目標や夢を抱いて新しい学年を迎えていると思います。勉強のこと、行事のこと、友達のこと……。子どもたち一人ひとりに、頑張りたい様々なこと、ワクワクすることがあります。もしかしたら、前の学年でできなかったこと、うまくいかなかったこともあるかもしれません。「もっとできるようになりたい」「変わりたい」という思いがあるかと思います。

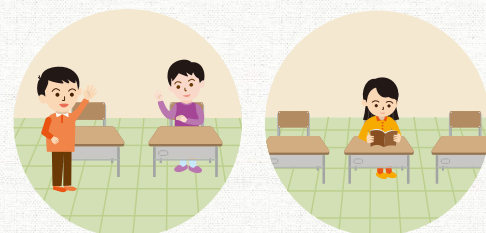
4月は、まず、子どもたちがどういうことが好きで、どういう思いを持っているのかを理解することを一番大切にしています。



【初日に子どもたちを知るためにできることの例】

初めて教室に入ってきた時、休み時間になった時、どんな表情、どんな行動をしている?

- ・ 友達に話しかけに行く子
- ・ 教師に話しに来る子
- ・ 一人でいる子
- ・ 隣のクラスの友達に話しに行く子



子どもたちの様子を見ることで、初めの段階で新しいクラスにどのような関係性の友達がいるのかがわかります。

自己紹介で名前と好きなことを言える?
どんなことを言っている?

教室で初めて過ごす時に、自己紹介で名前と好きなことを伝え合います。

【話す時】

- ・ 友達の方を見て元気に話せる子
- ・ 恥ずかしさでなかなか言い出せない子
- ・ 誰かとアイコンタクトしている子
- ・ 心配で教師に聞きに来る子

【聞く時】

- ・ 友達の自己紹介に対して質問や反応をする子
- ・ 声は出さないけれど興味のあることに対しては嬉しそうな表情をする子
- ・ あまり反応がない子

など、自己紹介の様子を見ているだけでも子どもたちの様々な見とりができるかと思っています。

好きなことは名簿にメモをしたり、教師も質問したりして、子どもたちがこれからの生活に希望を持ち、楽しく過ごせるようにしています。

この見とりから、子どもたちとのよりよい関係づくりが始まります。

Scene 2 教師の自己紹介！

子どもたちは、教師に対しても、どんな先生かな?と期待と不安を持っています。

そこで、私のことを楽しく知ってもらい、自分との共通点を見つけて、親近感を少しでも持ってもらえたらいいなと思っています。

何問わかるかな? 先生クイズ

私は、好きな食べ物やキャラクター、スポーツ、歌、テレビ番組、ゲーム、学校に関することなど、その学年の子どもたちが興味を持ちそうなことの中から3問程度、三択でクイズを出しています。



ただ自己紹介をしてもよいのですが、クイズにすると、子どもたちは興味を持って聞いてくれますし、それまで緊張していた子どもたちも、少し緊張がとけ、盛り上がり答えを考えてくれます。

その年に何を出そうかな、と私自身も楽しんでクイズをつくっています。子どもたちの自己紹介前に教師が自己紹介をすると、子どもたちの自己紹介の例にもなって、子どもたちも話しやすくなります。

Scene 3 自然に始まる 子どもたちの関係づくり!

すでにクラスに友達がいる子、まだいない子がいるので、誰もが自然に関わりを持てる簡単なゲームをするようにしています。

- ・ じゃんけんゲーム
- ・ カード渡しゲーム
- ・ 自己紹介すごろく

など、初めて同じクラスになった子ともゲームを通して自然と会話をしたり、ゲームを楽しんだりする機会を設けるようにしています。



このようにして、子どもたちが帰る時には、この1年間は楽しそうだな、と思えるようにしたいと思っています。

Epilogue 子どもたちと一緒に 楽しい1年間をつくる!

子どもたちが前向きに1年間を迎えられるよう、4月は特に子どもたちの話をよく聞き、しっかり見とりをするようにしています。新しい学年になって様々なことに挑戦しようとしている一人ひとりのために何ができるかなと考えていくことが大切だと思います。

クラスや学年を子どもたちと一緒につくり上げていくという気持ちを持つとともに、それを子どもたちにも伝え、そのためにはどんなことをしていきたいか、みんなで考えてクラスづくりをするようにしています。





MASAYA presents

Masaya

Masaya

僕も、僕以外も。でおなじみの

山本 雅也先生の「教えて 学年・学級開き！」

(横浜市立港南台第三小学校)

「学級開き」って？

みなさんは学級開きをどのようにしていますか？

学級開きについては、子どもと出会う前の準備を入念に行うことが大切だと考えていて、「安心」と「丁寧」をキーワードにしています。

ここでは、学級開きを「準備編」と「学級開き編」に分けて紹介したいと思います。

準備編(学級開きを迎える前に)

学年のメンバーで話し合う

4月は出会いの季節です。新しく学年を組む先生とたくさん話をしながら準備をするようにしています。「初めて先生になった人」「異動してきた人」「初めて学年を組む人」など、この時期は新年度の期待も大きいですが、不安を抱えている方も多いと思います。

そこで、しっかりと時間をとって、どんな学年・学級にしたいかや教室での座席の形、給食当番や掃除当番などの表のつくり方などを、学年のメンバーで話し合うようにしています。同じようにできるところは、どのクラスでも同じように準備するようにしています。同じように準備することで、分担して準備することができ、効率よく進めることができます。また、それぞれのやり方を出し合うことで、一緒に合わせるところとクラスによって違うところを、学年のメンバーが把握・共有することができます。

学年だよりをつくります。

給食当番表をつくります。

靴箱やロッカーの表示をつくります。



配付物はダブルチェックでミスを防ぐ

学年の名簿や学年だよりなど、4月の最初の時期は配付するものがたくさんあります。子どもや先生の名前などに誤字や脱字といったミスがあると、保護者からの信頼を得ることが難しくなります。忙しい時期ほど、作成したものや配付するものなどのチェックを大切にしています。

子どもや先生の名前に間違いはありませんか？

文章に誤字や脱字はありませんか？

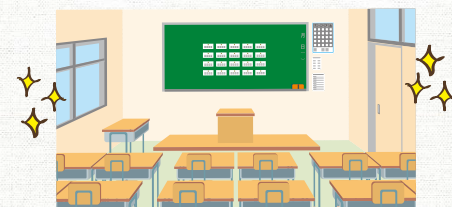


教室の環境を整える

毎日過ごす教室です。子どもたちの動線を考えて、シンプルで使いやすい教室にするようにしています。白衣を置く場所や教科書・資料集などを置く場所、教室内に掲示するものなどを学年のメンバーと相談しながら決めていきます。

教室環境を整えて掃除を行い、机をきれいに並べましょう。

名札マグネットをつかって見える位置に貼ったり、座席表を作成したりしましょう。



子どもも教師も「安心」できる準備を進めて、子どもとの出会いに全力を尽くしましょう。



学級開き編

始業式の日には、「新しいクラスはどんなメンバーかな？」「先生は誰かな？」と子どもも保護者も期待と不安でいっぱいです。家に帰ると「今年は〇〇さんと一緒にクラスだったよ」「先生は〇〇先生だったよ」といった感想を話す機会も多いと思います。

そこで、学級開きでは、教室を「安心」できる場にするのを大切にしています。

一人ひとり名前を呼んで安心できる雰囲気

名前を覚えて初日を迎えたいですが、会議や準備することが多くて難しいこともあると思います。クラスの人数が少ない場合は、名札マグネットを机に貼り、人数が多くて見づらい場合は、座席表を用意するようにしています。また、高学年になると多くの教師が授業に関わります。授業者も、子どもの名前を把握できるようにしましょう。

名前を早く覚えられようような工夫をしておくと、自信を持って子どもの名前を呼ぶことができます。



朝のあいさつから子どもの様子を見とる

子どもを見とることを大切にしています。特に年度の始まるの時期は、朝のあいさつに力を入れています。教室に入ってくる子どもに元気よくあいさつをするようにしています。元気にあいさつしてくれる子もいれば、何も言わずに入ってくる子もいます。子どもの様子をよく見て、「仲のいい友達とクラスが別れてしまった」や「夜遅くまで起きていて朝なかなか起きられない」など、様々な要因があると思います。子どもと話したり、学年のメンバーに相談したりしながら、原因を考えるようにしています。



声かけを大切に

1日の中で、クラスの子ども全員と話す機会をつくることを心がけています。休み時間や授業の合間だけでなく、机間指導や給食当番の際など、様々な場面で子どもに声をかけるようにしています。一人ひとりと目を合わせて、少しの時間でも会話することで、不安に思っていることや頑張っていることなど、何でも話せる雰囲気づくりに努めるようにしています。



どんなクラスにしたいか思いをしっかりと伝える

どんなクラスにしたいのか事前にしっかりと考えて(学年のメンバーにもどんな話をするか聞いたり、学年としてどんなことを大切にしたいかを相談したりして)、短い言葉ではっきりと伝えるようにしています。熱量を持って、自分の思いを伝えましょう。



子どもたちのすてきなところを見つけてどんどん褒める

「いいところやがんばったことをほめる」「感謝の気持ちを伝える」ことを大切にしています。「友達の話を静かに聞けたね」「自分の意見をたくさん話せたね」「気づいて、やってくれてありがとう」など、温かい言葉でクラスの運営ができるようにしています。課題については、「もっと意見を伝えてくれたら嬉しいな」「5分間、静かに取り組もう」のように、前向きな言葉がけをするようにしています。

子どもも教師も「安心」できる温かい学級をつくらしましょう。





社会の中心で**石川**が大きく叫ぶ! でおなじみの

石川 和之先生の「教えて 学年・学級開き!」

(横浜市立日枝小学校)

どんなことをいつまでに? (巻き戻す)

「勤務校の学校教育目標の実現に向けて、どんな学年の雰囲気、どんな学級の雰囲気にしていきたいですか?」

「それは、これから1年間・約200日間の学校生活のいつ頃までに達成できるようにしていこうと考えていますか?」

この二つの問いかけに、ある程度、自分の考えを整理してから学年・学級開きに臨みたいと考えます。※=この項の最終部分を確認してください。

「3月の修了式の時には、このような学年や学級の雰囲気であってほしい」という願いをある程度見通しておくことは、非常に重要です。そこから逆算して、「冬休み前の秋頃には?」「夏休み前の7月あたりには?」「できたら6月あたりには、このあたりのことまでできるようになってくれたら嬉しいな」など、このような見通しがあるからこそ、トライ&エラーで、その時々の子どもの実態を見とりながら、手立てを工夫・改善していくことができるのだと思います。

これを、様々な経験年数の教職員が「学年チーム」として取り組んでいくことを考えると、冒頭の二つの問いに対して「どれだけ4月の児童登校日までに互いの考えを共有し合うことができるか」がキーポイントになりそうです。



おおよそのオーソドックスな見通しを持つ

学校や学年、学級によって実態があり、その実態は一人ひとりの子どもや保護者、家庭の状況に応じて変わってくるので、冒頭の二つの問いに対する考えは一概にはいえませんが、おおよそのオーソドックスな見通し(あくまでも私の経験上の考えです)を目指す姿(未来)から、「巻き戻し」ながら伝えられたらと思います。

修了式には

自分の考えに自信を持って友達に伝えられる子ども、友達の考えに対して共感しながらも一方ではしっかりと自分の考えを表現できる子ども、その場その場の状況に応じて自然体で「話す・聞く」ができる雰囲気になっていたいと思います。

秋頃には

修了式での学年・学級の雰囲気を、何とか秋頃には!と思って実践してきました。これがうまくいき、10月頃に可能になっていると、子どもたちは本当に自ら意欲的に学び始めます。わからないことや困ったことがあると、教師ではなくまず友達に助けを求め、周りの友達もタイミングよく友達の困り感を察知してアドバイスし合う雰囲気をつくり出します。このようにして「子どもに学びをゆだねる」が実現していきます。

夏休み前には

夏休み明けの9~10月の学年・学級の雰囲気づくりへの見通しを考えると、一番のポイントになるのが、この「夏休み前には」です。大前提になる見通しとしては、「一生懸命にがんばっている子ども」が、しっかりと評価を得られる雰囲気にしておくことです。様々な子どもがいます。ふざけ過ぎてしまい、授業で真剣に学ぶ雰囲気を台無しにしてしまう子どもも当然いるかと思いますが、私は、そのことについて厳しく叱ることはしません。ポイントは「一生懸命にがんばっている子ども」が、ふざけてしまう子どもを前にして、「がんばっても意味ないじゃん」という気持ちにだけはならないようにすること。学びに対して真剣な子どもがこの時期にしっかりと学年・学級で評価を得られる雰囲気にできていれば、必ずや9~10月には多くの子どもが、真剣に学ぶことのできる雰囲気になっていくと経験を通して感じています。

6月に入る頃までには

クラス替えをしてまだ2か月が過ぎたばかりです。まだまだ多くのことは求められないと思います。子ども同士でトラブルが起きても、互いのことを十分には理解できていない状況なので、教師の出番はそれなりに多いでしょう。ここでは、まず「聞くこと」です。「先生も、友達も、ちゃんと自分の話を聞いてくれる」、そう思えるようなそれぞれの自信づくりに向けて、我慢のしどころです。気候的にもジメジメしてきますのでイライラしてしまう子どもも当然います。しかし、ここを丁寧にすることで、必ずや7月末、そして9月末、後半期に「子ども自ら進んで関わり合う雰囲気ができてくる日」が訪れると思います。

4月の学年・学級開きでは

さて、そういった見通しの中で逆算してきた最初の最初の日。それが、学年・学級開きです。特に、4月最初の日が学年で動くことも少ないでしょうから、学級開きがメインになることでしょう。

あらためて、「Vol.07」の11ページの言葉、「子どもの『すこさ』に感動する私たち教師の姿勢と、真剣に友達の話に耳を傾ける教室の雰囲気」「『その子の生活経験に裏づけられたその子自身の考え』を表出できる場の大切さ」「普段はやんちゃな子ども、真剣に発言し、さらにそれを真剣に聞いてくれる友達の存在」、つまり「**心理的安全性が担保された空間**」。この空間を、「教室」につくり出すことが学級開きのねらいです。これは、学年開きでも、社会科の授業開きでも、同じことがいえます。子どもに学びをゆだねていくからこそ、まずは教師も子どもも「聞く」ことからのスタートが大事です。「聞いてくれる」という前提があるからこそ話したくもなります。「こんなことを話してもいいのかな」と思うことでも、必ずやそういう考えこそ学びを深めるものです。「言ってみようかな」という思いになってほしい。そう考えると、やはり、「聞くこと」からの学年や学級、社会科のスタートなのだと思います。

授業づくりにおいても、資質・能力ベースの学びがますます重要になってきて、45分の授業づくりの準備に追われる、つまり「自転車操業のような教材研究」では、目指す子ども像の実現は難しくなります。子どもにできる限り学びをゆだねるためにも、「単元」という大きなまとまりでの「見通しを持った教材研究」がかなり求められているところです。これは、学年開き・学級開きにも同じことがいえます。





楽しい学びのクラスをつくる 編集人？

大滝 文平の「教えて 学年・学級開き！」

(横浜市立箕輪小学校)

学級開きのポイント

- ① 出会えた喜びを爆発！（表現力！）
- ② いっぱい聞いて、いっぱい観る！
- ③ 優しい先生？ こわい先生？

① 出会えた喜びを爆発！

「新しい担任は誰かな」、教員以上に子どもたちは期待と不安でいっぱいでしょう。新しいクラスメートを知って、嬉しさ、寂しさ、喜び、不安……。その後の担任発表、という流れが多いのではないのでしょうか。子どもの安心につながる最初の出会い。精一杯の笑顔で向き合ってください。一人ひとりの子どもに出会えたことの喜びを存分に表現しましょう。



「すごくニコニコの先生だって言うてましたよ」、最初の個人面談で保護者の方から言われた言葉です。嬉しくありがたかったです。

教師の表現力、とても大切です。今、あなたの振る舞いが子どもにどのように映るか。学校生活の様々なシチュエーションを想起して、表現力を磨いてほしいものです。

② いっぱい聞いて、いっぱい観る！

「学級開きで最初に子どもに何を伝えよう？」、学級経営をするにあたり、所信表明的なことを考えると思います。私はあまり伝えることを意識していません。学級開きの時期は特に、「子どもの声をいっぱい聞く（受けとめる）」ことと、「集団としてのホメホメ（褒め褒め）ポイントを探す（観る）」ことを心がけています。「あなたのこと、すごく関心があります」、このスタンスが子どもに伝わるように振る舞います。たくさん話してくれる子、少し遠くから様子を見ている子など、少しずつ子どもの実態が見えてきます。「聞いてくれ

る先生」は、子どもの安心につながっていると思っています。さらに、子どもの姿をいっぱい見て、ホメホメポイントを探します。私がクラス全体に伝えるのは、所信表明ではなくホメホメポイントです。



「感動しました！昨日の帰り、みんなの机がきちんとそろっていました。初日からすごい！」「初日から上履き、みんな履いているね。当たり前のことも知れないけれど素晴らしい！」、話の聞き方などもホメホメポイントにつながります。ちょっとしたことで、学級経営上で大切にしたい点を通して、観察していきたいです。

③ 優しい先生？ こわい先生？

「先生って優しいか、こわいかわからない」、学級（高学年）が始まってしばらくして、子どもから言われた言葉です。世間話のように言ってきました。

「えっ、どういうこと？」、私が問い返します。「だって、基本的にはおかしな話ばかりしているけど、ダメな時はダメって厳しくなる」「ありがとう。これ、最高の褒め言葉！」こんなやり取りでした。

基本的にはポイント①と②のスタンスを重視して、子どもの姿を受けとめています。基準がある訳ではありませんが、私の学級では、子どもの自由度は高い方だと思います。よく使う言葉は「好きにして！」。例えば、「先生、係活動でアンケートをみんなに取りたいけど、やってもいい？」→「好きにして！」、子どもが自分なりに活動したい、と考えたことに対して、よほど範疇を外れていなければ、その活動を保障してあげたいものです。最終決断は自分たちで決めてほしい、そして責任を持ってほしいという願いがあります。もし、この問いかけに対する教師の返答が「どうぞ」だったら、「先生がいいって言った」という声

が聞こえてきそうです。「好きにして！」は、一見優しく聞こえるかもしれませんが、子どものちょっとした、主体性を育む意図があるのです。

そして、私が意識しているのは、「（学級や他の児童など）人に迷惑をかける行為は許さない」ことです。この一線を子どもが越えた時は、一貫して許さない姿勢を変えません。おそらく、このようなスタンスが「優しいか、こわいかわからない」と映るのでしょう。

学年開きのポイント

- ① 「担任が学年全体を見る」を徹底！
- ② 学年目標を大切に

① 「担任が学年全体を見る」を徹底！

教科分担制や学年担任制など、子ども一人ひとりの安心につなげるための取り組みが重視されています。そのために、担任同士が、学級を越えた子どもの姿を日常的に見とれるチームになることが基盤となります。

② 学年目標を大切に

ポイント①を支える一つに、学年目標の設定が挙げられます。子どもたち自身が自分の学年にどのような願いを持ち、進んでいくか。学級数にもよりますが、子どもたち同士でじっくり話し合える手立てを講じて、あらゆる行事で意識したり、ふり返ったりできる目標を設定したいものです。

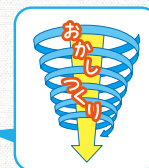


社会科の授業開きポイント

- ① 社会科は「おかしつくり」をします！
- ② ノートは思考の作戦会議の場！

① 社会科は「おかしつくり」をします！

私が必ず社会科の授業開きで伝えている学び方です。これが位置づく、他教科でも転移・応用されて学び方に広がりが出ます。詳しくは「Vol.05」の2ページをご覧ください。



② ノートは思考の作戦会議の場！

「先生、黒板に書いてあることノートに書きますか？」、ノートは思考の作戦会議の場。自分にとって必要なことは書く。大事なことはその時間のふり返りと次の時間へ向けての考えをしっかりと書き表すこと。スーパーノートを紹介して、ノートの意識を高めます。



みんなで楽しく学ぼう！先生たちの勉強の場（今年で8年目）紹介！

社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場（きたまなば）」



横浜市北部（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の社会科有志が中心となって発足した、緩やかな勉強の場です。

発足して8年目になりますが、今では横浜市内・市外の初任者をはじめ、経験の浅い先生、中

参加費
無料！



遅刻・早退
OK！事前
申し込みも
不要！

北学場 〈連絡先〉大滝 文平
kitamanaba@gmail.com

堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味があれば、ご連絡（メール）をいただくと案内チラシを送らせていただきます。



編集後記

大滝の小言

Vol.08は「学年・学級開き」の特集を組みました。いかがでしたか？通して読んでみると、私を含めた執筆者それぞれに、内容はもちろんのこと、文章スタイルや構成にも個性があることが伝わってきます（「学級開き」なのに、年間を通して書いている人まで！）。だからこそ面白いし、刺激にもなります。

多くの学校で、年度初めに学年引き継ぎの時間があることでしょう。実施の仕方は様々だと思いますが、学校生活を送るうえで配慮が必要な身体特性のことや、家庭的な配慮など、絶対に外してはならない引き継ぎ事項があります。しかし、子どもの性格・行動などの見立てについては参考程度でよいのでは？まずは、先生ご自身が、子どもの姿を丸ごと受けとめる！先入観を持ちすぎたまま子どもと向き合ってしまったら、子どもが可愛そうですね。子どもも、先生方と同じく、新しい気持ちでスタートするはずですよ。

だからこそ、先生ご自身の心で子どもを捉え、ステキな関係性を築いてほしいと願います。そうした積み重ねが、先生の「子ども観」の形成につながっていくことでしょう。

今後も、特集のリクエストがありましたら、ぜひともご意見をお願いします。

横浜市立箕輪小学校 大滝 文平



「楽しい学び de クラスをつくる」では、
みなさんからの質問をお待ちしています！
〈連絡先：北学場〉 kitamanaba@gmail.com



※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる (vol.08)

日文教授用資料

令和7年(2025年)3月3日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5

TEL: 06-6692-1261

FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33768

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690